

実績評価【令和3年度】

二酸化炭素排出量評価（目標と実績）※目標値、平成27年度を基準値として平成28年度に設定

(単位：kg-CO2)

(単位：kg)

調査項目	基準年度 平成27年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標年度 換算値	削減率(%)	目標値 令和3年度
ガソリン	2,208	4,049	4,380	4,563	4,382	4,254	2,206	+92.8	1,987
液化天然ガス(LNG)	3,716	524	238	159	0	0	-	-	3,344
電気	248,381	208,308	193,305	142,781	145,523	152,850	248,379	△38.5	240,930
二酸化炭素排出量 合計	254,305	212,881	197,923	147,503	149,905	157,104	250,585	△37.3	246,261

※温室効果ガス総排出量算定方法ガイドラインに準拠

削減率3.2%
(平成27年度比)

※平成29年度ガソリン車1台増、天然ガス車1台減

※令和元年度天然ガス車1台減（令和2年度以降使用なし）

※令和3年度より電気の1施設が管理外

※実績は各年度、排出係数による換算値（電気の排出係数に誤りがあったことから過年度分の再計算を行った。）

評価年度の総評

※公用車利用の抑制が感じられる。また、少雨傾向であったが施設の運転抑制がなされた。

電力使用量は降雨量の増減により施設設備の使用量に影響を及ぼすが、排出係数にも左右される。目標最終年度のように実際の使用量は減少しても毎年発表される排出係数の増加によって二酸化炭素排出量としては増加することもあるが、設定した目標値を達成するために二酸化炭素排出量の削減に努める必要がある。

計画期間の総評

ガソリン車と天然ガス車両の増減により、ガソリンの項目では大きく目標を達成出来ていない。状況が変化した時点での目標の見直しが必要であったが行われていない。

電気使用量は降雨量の増減により施設設備の使用量に影響を及ぼすが、排出係数にも左右される。目標最終年度のように実際の使用量は減少しても毎年発表される排出係数の増加によって二酸化炭素排出量としては増加することもあるが、設定した目標値を達成するために二酸化炭素排出量の削減に努める必要がある。

計画の期間中すべての年度において二酸化炭素排出量合計値としては目標達成を行うことが出来たが、次期計画では計画途中であっても状況の変化に応じ個別の目標を含め目標の見直しを行うべきである。今後は計画年次に達したため、よりCO2排出を削減できるよう新たな目標値を設定し達成を目指す。

